

## 滲出性中耳炎にはまず柴苓湯を服用

**Q** 八歳、男児。三年前に滲出性（しんしゅつせい）中耳炎との診断で耳鼻科の治療を受けてきましたが、はかばかしくありません。漢方治療によいものがあれば教えてください。また現在の耳鼻科の薬と併用してもよいですか。

**A** 母親の手紙によれば水泳を始めたころから、夜に耳痛を訴え、かぜのような症状を繰り返すようになったという。また患部の左耳よりジクジクした滲出液が出るという。

このような中耳炎にまず試みられる漢方薬は柴苓湯（さいれいとう）である。また耳鳴りを伴う場合は小柴胡湯（しょうさいこうとう）と香

蘇散（こうそさん）の併用もよく試みられる。うみがなかなか排出しない場合は排膿散及湯（はいのうさんきゅうとう）を用いる。

症状がこじれて、このような漢方薬ではよくならず、体力が低下し化膿しやすくうみが排出しにくい場合には十全大補湯（じゅうぜんたいほとう）や千金内托散（せんきんないたくさん）がよく効くことがある。また中耳炎を起こしやすい体質の小児向けの体質改善薬として柴胡清肝湯（さいこせいかんとう）もよく使われる。

発症から既に三年たっているので、ある程度根気よく服用する必要がある。半年から一年ぐらいを改善のめどと考えて服用していただきたい。なお耳鼻科の消炎剤や抗生物質とは時間をずらして服用すれば併用はさしつかえない。